

令和三年度 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部

学位記授与式 式 辞

日増しに暖かさを感じる三月、本日ここに、卒業生・修了生の皆様
が、学位記を手になれ、本学から新たな世界に巣立っていかれること
に対し、大学教職員と在校生を代表して心からお祝い申し上げます。
ご来賓各位には、ご多忙の中を本学の学位記授与式にご臨席を賜り、
心からお礼申し上げます。

現在、二年にわたる新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、依然
警戒していかなければならない状況にあることから、やむを得ず今年
度も保護者の皆様にご遠慮願ったり、式を簡略な形で挙行することと
なりました。何卒ご理解いただければと考えております。

さて、みなさんは、この二年間、コロナ禍で学生生活が大きく変化
する中で、それに対応しようと日々努めてこられたことと思います。
具体的には、学修面では対面授業に代わるオンライン授業あるいは両
方を取り入れたハイブリット方式による授業、課外活動では練習の制
限や大会の中止・延期、その他行事や実習における安全を考慮した限
定的な実施などです。こうした制約の中でも、みなさんは研鑽を積ま

れ一定の成果をあげられてきたことに対して敬意を表したいと思ひます。

確かに私たちは、百年に一度の災害ともいわれるこのコロナ禍を今経験していますが、視点を変えれば、人間そのものが試されているとも考えられます。すなわち、「さあ人間はこの困難にどう知恵を出し合つて対応するのか」という問いをコロナから投げかけられているということ です。この問いの解決のために、私たち人間が基本的に認識しておかなければならない重要な二つの点を紹介したいと思います。また、これら二つの点をみなさんへの私からのメッセージとさせていただきます。

第一は、どのような状況にあつても、人間一人一人が主体性をもつていかによく生きるかということです。これからの時代、我が国のみならず世界的規模でさらに大震災、自然災害、感染症をはじめ、これまで想定していないような問題や課題に遭遇することが予想されます。こうした状況の中で、さまざまなプロパガンダや主義・思潮に左右されず、またマニュアル的思考に陥らず、しっかりと自分の考えをもつて行動していくということです。私は、それが主体性を持つて生きるということだと思います。

このことは、まさに本学の建学の精神である「作新民」に通じるものです。「作新民」とは、さまざまな未曾有の出来事に遭遇しても、またどのような時代が来ようとも、理性を持って状況を的確に判断・認識し、創造力を発揮して行動できる人間の育成を意味します。この学び舎で学んだみなさん、ぜひ改めて「作新民」の意味と主体性をもって生きることについて考え、これからの人生に生かしていつて下さい。

第二は、寛容と共存共生の精神をもって、できれば地球的規模で物事を考え、行動するということです。

現在、一方では、SDGsや持続可能な社会の実現に向けて地球的規模で地球を守ろうとするさまざまな創造的な取り組みが行われていますが、他方では、この21世紀において、幼い子供たちまで犠牲になっている、まさに暴挙と呼ぶべきロシアによる侵略戦争のような破壊的行為が起きています。

私は、人間が他者を思いやり、認め合い、共に生きるという共存共栄の精神を失い、多くの人々の声に耳を貸さなくなったとき、その人は人間としての価値を失うことになるのではないかと考えています。

みなさんの中には、日々の生活に追われて、なかなか地球的規模で物事を考えることは難しいと感じている人もいるかもしれません。し

かし、私たちの身近な生活の中にも、地球的規模で考える手がかりは数多くあるのではないかと思います。ぜひ寛容と共存共生の精神を持つて、グローバルな広い視野で物事を考え、そして行動できる人間になってください。

最後になりますが、「作新民」としての卒業生・修了生みなさんが、諸先輩に続いて今後さまざまな分野で活躍されることを祈念し、私の式辞いたします。

令和四年三月二十日

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部

学長 渡邊 弘